

2018/9/21

神代植物公園

植物多様性センターの「ジュズダマ」

熱帯アジア原産のイネ科多年草です。日本へは古い時代に渡来し食料とされてきました。その後イネが伝来して主食になるとジュズダマは栽培されなくなり野生化したといわれています。イネ科の花はしょうすい小穂という形態になりますが、虫媒花から風媒花への進化の過程で花弁等を失い、構造が単純化したと考えられています。ジュズダマの花序は特に変わっていて、穂の先端に雄花、基部に雌花がつきますが、このように雄花と雌花に分化するのはイネ科では稀少な例です。花の構造を詳しく見てみましょう。



雌性小穂は壺形の苞鞘の中
白い柱頭だけが外に覗く



苞鞘の中には1個の雌小穂と
2つの退化した雌性小穂(緑色)



雄性小穂は苞鞘から伸び出た
柄の先に数個つく



雌性先熟で柱頭が枯れると
雄花が花粉を出し始める